

2017年10月13日

## 2016年度のスチール缶リデュース率

### 1缶当たり7.71%(2.74g/缶)の軽量化を実現

- 2015年度実績(7.20%(2.55g/缶))から、さらに軽量化が進みました。

#### <第3次自主行動計画概要>

- 基準年度: 2004年度、目標年度: 2020年度
- 目標「目標年度に、基準年度比重量8%の軽量化を目指す」  
(2016年10月7%から8%に上方修正)
- 基準年度(2004年度)の1缶当たり重量: 35.50g

容器包装の素材に係るリサイクル八団体は、2005年12月に「3R推進団体連絡会」を結成、3R推進に向けた「事業者による自主行動計画」を策定し、2006年3月28日に公表しました。

これを受け、スチール缶製造の企業で構成する日本製缶協会は、2006年6月「スチール缶軽量化推進委員会」を立ち上げ、スチール缶の軽量化の取り組みを開始しました。

#### 《スチール缶軽量化推進とリデュース率の概要》

- ・ 軽量化の研究・実用化はスチール缶全般を対象に推進。
- ・ リデュース率算出の対象は、生産数においてカバー率が当初85%前後を占めていた主要4缶型としてきたが、2015年度にカバー率が80%を下回ったため、同年度より、次に生産数が多い160ml缶を加えた主要5缶型とした。
- ・ 主要5缶型: 160ml缶、200ml缶、250ml缶、280ml缶、350ml缶
- ・ 2016年度主要5缶型のカバー率は、86.2%
- ・ 集計調査は、第三者機関にて実施。

#### 【参考】

詳細については、本頁裏面の「スチール缶のリデュース(軽量化)に関する実績(2016年度)」をご参照ください。

.....  
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田  
電話: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435  
E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp